

ラオス国ポリオワクチン支援活動 2026.7 活動報告

いつも古着 de ワクチンをご愛顧いただき誠にありがとうございます。

古着 de ワクチンは専用回収キット 1 口につき 5 人分のポリオワクチンを寄付する自立支援型・寄付つきお片付け商品です。皆さまの継続的なご支援により寄付規模が大きく成長し、2025 年 4 月にはラオス人民民主共和国保健省と直接協定を締結し、寄付ワクチンをより確実に届けられる体制が整いました。昨年は、直接協定後初めてとなる運営事務局単独での支援活動として、主に南部・中部地域の医療現場を訪問しました。そして本年は、その活動をさらに発展させ、都市部から離れ、医療アクセスが限られるラオス北部地域を中心に活動を行いました。

また、皆さまからの継続的なご支援により、2026 年 4 月には**ポリオワクチン寄付数が累計 1,000 万人**に到達するという大きな節目を迎えることができました。

世界遺産都市ルアンパバーンを拠点に、周辺の村々や保健センターを訪問し、現地の医療体制やワクチン接種の実施状況を直接確認しました。本レポートでは、北部地域の現状、赤ちゃんへのワクチン接種の様子、そして皆さまのお片づけがどのようにラオスの子どもたちの未来につながっているのかをお届けします。



〈ラオス国について〉



インドシナ半島に位置するメコン地域諸国のひとつであり ASEAN 唯一の内陸国です。国土のほとんどが山岳地帯であり首都ビエンチャン周辺とメコン川流域を中心に平地が広がっています。

首都：ビエンチャン 言語：ラオス語 民族：ラオ族を含む 50 民族

宗教：仏教（人口の約 65%）

面積：24 万 km² 人口：約 780 万人（日本約 60 %の国土面積に埼玉県の人口）

ポリオ状況：2017 年ポリオフリー 宣言

〈古着 de ワクチンから参加のメンバー紹介〉



A マコ:古着 de ワクチン運営事務局 営業本部長
B スレイレック:カンボジア直営センター スタッフ
C サキ:カンボジア直営センター スタッフ
D マリハナ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
E ユウスケ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
F ニーオ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
G エミリ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ
H トミオ:古着 de ワクチン運営事務局 スタッフ

今回の支援活動には、日本スタッフ 4 名、フィリピンスタッフ 1 名、カンボジア直営センターから 2 名、台湾スタッフ 1 名が参加しました。

カンボジアスタッフの スレイレック は、生まれつきポリオ障がいを抱えるスタッフです。5 歳頃から筋肉が収縮し始め、両足首が曲がった状態となり、通常の歩行が難しくなりました。

障がいによる差別やいじめ、さらに両親の他界により頼れる身内もない状況でしたが、「自分の力で生きる」と決意し、働きながら学費と生活費を自ら賄えるまでに成長しました。現在は 英語の先生になる という夢を持ち、前向きに努力を続けています。

スレイレックは、2024 年の バヌアツ国支援活動 に続き、今回が 2 回目の参加です。カンボジア古着 de ワクチンセンターのコンセプトである「支援される側が、支援する側へ」を体現したいという強い思いから参加を希望しました。**自分と同じ苦しみを味わう子どもたちが一人でも減るように――**

その願いを胸に、ポリオワクチン接種の現場へ向かいました。ぜひ、スレイレックの活躍にもご注目ください。また、活動の一部では、姉妹シリーズ「着物 de お針子」で協業しているラオス国女性障がい者支援団体の理事長とスタッフも参加し、国を越えた支援の輪が広がる取り組みとなりました。

〈今回の支援活動で訪れた県や村の位置関係〉

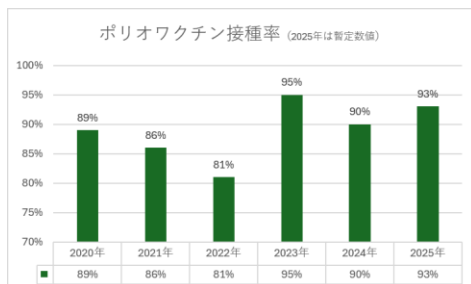


今回の支援活動は、世界遺産都市ルアンパバーンを拠点に、周辺の山間地域の村々を訪問しました。北部地域は首都ビエンチャンから遠く、医療施設までの距離が長いことに加え、道路状況も安定しておらず、医療アクセスが限られる地域が多くあります。

初日は **ムアンゴイカオ村** へ向かい、ウー川をボートで進んで訪問しました。3 日目は **ノンチョン村** へ、メコン川をフェリーで移動しました。こうした水上移動が欠かせない地域では、乳幼児の定期接種が天候や交通事情に左右されやすく、外部支援の重要性が高まっています。

2 日目に訪問した**ナムトゥアム村**保健センターでは、医療従事者派遣事業の調印式も実施し今後の継続的な支援体制づくりに向けた大きな一歩となりました。その他、ルアンパバーンの世界遺産の街並み、北部地域の自然豊かな秘境の様子もあわせてご紹介いたします。

〈ラオス国ポリオワクチン接種率 年別〉

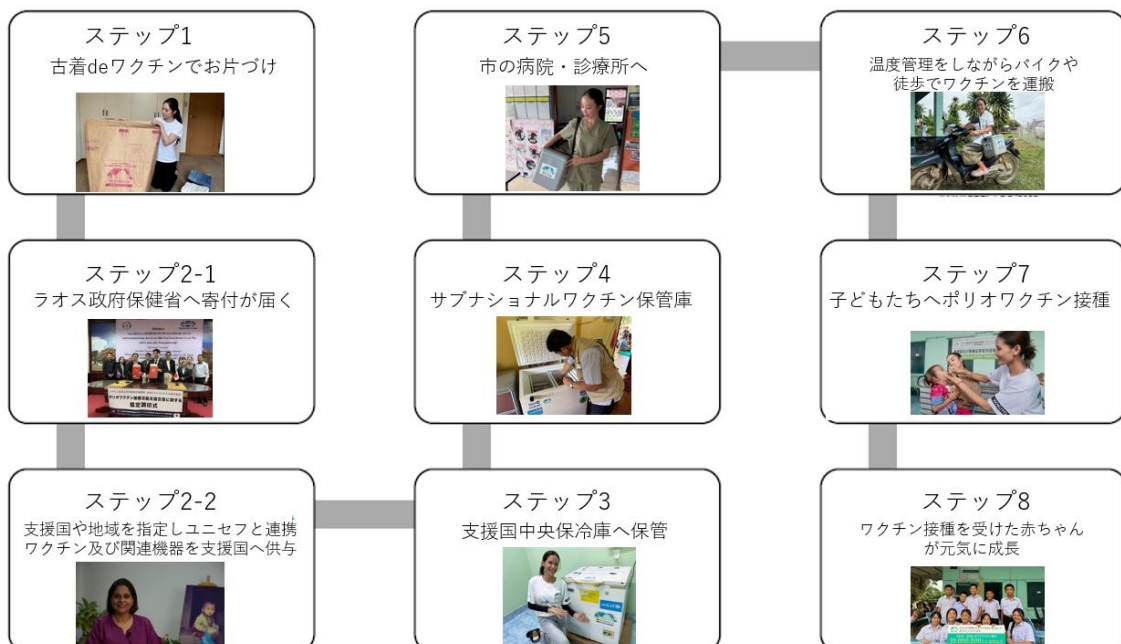


ラオスでのポリオワクチン接種周期は1回目6週目・2回目 10 週目・3回目 14 週目となっています。

2022 年コロナ後から接種率は高い水準で維持されていることがわかります。

※21-22 年はコロナの影響で国がロックダウンしたこともあり接種率が低下している。

〈古着 de ワクチンがポリオワクチンになるまでの流れ〉



このように、皆様の古着 de ワクチンを通したお部屋のお片づけが、開発途上国の子どもたちの命と健康を守るポリオワクチンへ生まれ変わっています。

ここからは支援活動で訪れた各村での状況をお伝えいたします。

ラオス国政府保健省より保健省国家予防接種プログラム副長 ドクターコンサイ氏をはじめ政府の母子保健センタースタッフの皆様へ全日程同行いただき適正且つ安全に活動を行いました。



〈ムアンゴイカオ村ヴォンサイ保健センター〉

まずムアンゴイカオ村（人口 770 人）に行くためには、船乗り場からボートを使い 1 時間かかります。住んでいるのはモン族など少数民族の方々です。村の皆さんは普段からこのボートを生活の足として利用しており、乗り合いボート（片道 3 US ドル）が必要不可欠です。



今回訪れた保健センターには、看護師や助産師など 4 名のスタッフが勤務しており、山あいと川沿いに広がる 9 つの村の医療を支えています。院長は不在で、予防接種（EPI）担当のスタッフが中心となって運営していました。15 年以上この地域で働く女性スタッフもあり、地域の状況をよく理解したうえで母子保健を支えている様子がうかがえました。

私が訪れた日は、スタッフがアウトリーチの準備を進めていました。船で向かう村が 5 つ、トラクターでしか



行けない村が3つあり、道はぬかるみが多く、移動には時間がかかります。赤ちゃんやお母さんがセンターまで来られない場合には、スタッフが村まで出向き、予防接種を行っているとのことでした。

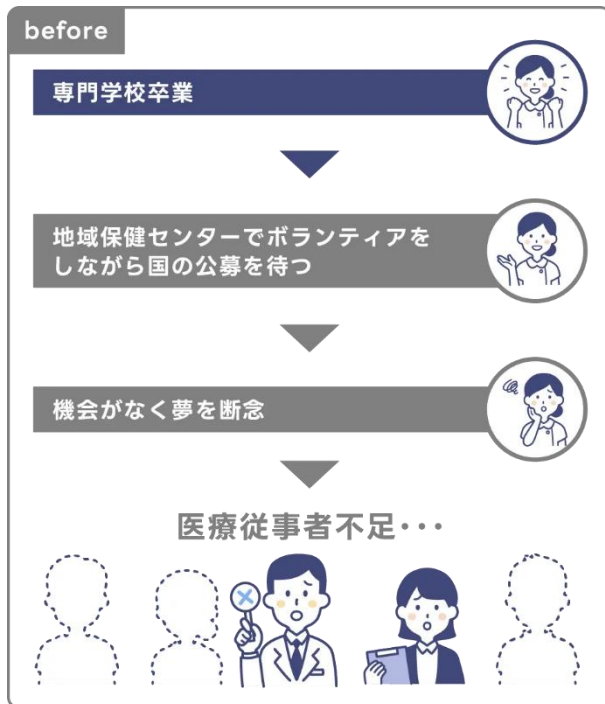
ポリオワクチンは首都ビエンチャンの保冷库からルアンパバーン保健局、ムアンゴイ郡保健事務所を経て、最終的に船で各村へ届けられます。雨季には道路が使えなくなるため、船での輸送が最も確実だと説明を受けました。私自身も船で川を移動しましたが、周囲には深い森と小さな集落が点在し、こうした環境の中でワクチンが届けられていることを実感しました。

こうしたアウトリーチ活動により、この地域ではポリオワクチン接種率 100%が維持されています。



〈ナムトゥアム保健センター〉

こちらの保健センターは比較的大きい規模で運営をしており 15 の村を管轄しておりワクチン予防接種対象者は約 3,000 人です。今回はナムトゥアム保健センターで働くボランティアスタッフ（助産師・看護師・医師）7 名を正式に弊社社員として迎え入れ、国の公募に合格するまで、正当な給料を得て働いていただけるよう政府と協定を結びました。





ラット・シーサワートさん

社員になる前の収入源: **毎朝 3:00～6:00 : 生ゴムの採液作業、牛飼育と田んぼ仕事**

コメント:このプロジェクトに心から感謝しています。この支援のおかげで給与をいただけるようになり、生活の助けとなっています。私はこれまで**6年間、ボランティアとして活動してきましたが、一度も給与を受け取ることはありませんでした。そのため、仕事を続ける意欲が低下し、気持ちがくじけそうになることもありました。**しかし、今回このような支援を受けることができたことで、これからもこの仕事に一生懸命取り組み、努力を続けていきたいという気持ちが強くなりました。また、私たちのようなボランティアを支援してくださったことに、心より感謝申し上げます。



ヨウ・ファトンワンさん

社員になる前の収入源: **牛の飼育とハトムギ畑の管理作業**

コメント:私の年齢は 34 歳で、これまで 9 年間にわたりボランティアスタッフとして

活動してきました。この度、本プロジェクトよりお給料をいただけることになり、本当に嬉しく、心から誇りに思っております。というのも、これまでの長期にわたる活動においてこのような温かいご支援をいただいたことは一度もなかったからです。

現在、私たち夫婦は二人とも医療ボランティアスタッフとして働いており、

家族を養うための副収入を得る手段も限られているため、今回のサポートは本当に大きな支えとなります。



〈ノンチョン村保健センター〉

この保健センターへは、フェリーでルアンパバーンの対岸にあるチョムペット地区へ渡り、そこから向かいました。ノンチョン村の人口は約 5,000 人で、ワクチン対象となる子どもは 70 人です。主にノンチョン村を管轄しつつ、周辺 6 つの小規模な村へのアウトリーチも行っています。村同士が離れているため、一泊二日以上かけて訪問する地域もあります。

スタッフは医師 1 名、看護師 3 名、助産師 1 名の計 5 名で構成されています。医師は約 8 年間のボランティア勤務を経て、今年ようやく国の公募に合格し、2026 年 7 月に初めての給与が支給されたそうです。

ノンチョン村のワクチン接種率は90%と比較的高いものの、約10%の母親は「熱が出るから嫌だ」「面倒だ」など、ワクチンに関する正しい知識が十分でなく、会場へ来ないことがあります。そのため、この保健センターでは家庭訪問を行い、母親たちに予防接種の大切さを伝える取り組みも進めています。



〈パクスアン保健センター〉

この保健センターは全 6 村を管轄し、パクスアン村を中心に、残り 5 村へは日帰りでアウトリーチを行っています。人口は 3,635 人、5 歳以下の子どもは 352 人です。周辺は舗装道路が整備されており、緊急時にはすぐにルアンパバーン県病院へ搬送できます。出産は月 1~2 件ありますが、重症時は県病院へ移送しています。運営面で大きな課題はなく、所長ボアンさんが衛生管理や記録管理を徹底しているため、スタッフからの信頼も厚いセンターです。ワクチン接種率は 95% で、モン族の住む村のみ接種が進みにくく、間違った知識が浸透してしまっている、訪問しても対応しないなど課題が残ります。センターでは定期的なアウトリーチと面会を重ね、予防接種の理解促進に力を入れています。



今回一緒に支援活動に参加した「ラオス女性障がい者支援団体」の理事長（着物 de お針子で協業している団体）は、彼女自身が医師でありポリオ障がい者です。理事長は自分の経験を元に、病院に来ている妊婦や母親に、ワクチンの重要性を伝え、現地の母親たちは熱心に話を聞いていました。

〈番外編①〉中国ラオス鉄道ルアンパバーン駅

スレイレックはビエンチャンから中国ラオス鉄道（いわばラオス版新幹線）を利用し、ルアンパバーンで私たちと合流しました。従来は車やバスで 8~10 時間を要していた区間ですが、現在は高速鉄道で約 1 時間 45 分~2 時間と大幅に短縮されており、国内移動の利便性が飛躍的に向上しています。開通 5 年目で乗客はほぼ中国人という印象を受けました。駅は中国らしく？ど派手で立派です。



ここからは村の小学校や孤児院の学生と交流をした様子をお届けいたします。
スマホやゲームがなくても、元気いっぱいの子どもたちの様子をご覧ください。
古着 de ワクチン運営事務局から各小学校生徒へ、ノートとクレヨンのセットをお贈りしました。



〈バーンムアンゴイ小学校〉

この小学校はヴォンサイ保健センターの近くにあり、農業が中心の村ですが自然観光地としても知られ、観光業に従事する住民もいます。保育園・幼稚園に 40 人、小学校に 54 人が在籍し、複式学級で 3 名の先生が教えています。小学校卒業後は村内の中高一貫校へ進学し、同校は周辺 11 村から生徒を受け入れ学生寮も備えています。最終学歴は中卒約 30%、高卒約 70%で、卒業後は村に残るか都市部へ出稼ぎに向かう若者が多い状況です。



〈ノンチョン小学校〉

ノンチョン村には 270 軒の家があり、小中学校に計 180 人が通っています。小学校は 1～5 年生が義務教育で、校長シーチャン先生のもと、小学校 6 名・幼稚園 4 名の教員が指導し、3 つの民族の子どもたちが学んでいます。卒業後は近隣の中学へ進学する子もありますが、中学で学業を終え、村内やルアンパバーン市内で働く若者も多く、進路の選択肢は限られています。



〈ルアンパバーン県孤児院学校〉

ルアンパバーン県孤児院学校は、ラオス政府教育庁の管轄下にある学校で、411名の生徒が在籍しています。そのうち約40%が県内11郡から送られてきた孤児で、教育庁が受け入れ可能人数を調整しながら各郡から子どもたちを迎え入れています。政府の支援により、寮の建て替えや日々の食事など、子どもたちの生活に必要な費用が賄われています。

教育課程は幼稚園3年、小学校5年、中学校4年、高校3年と、日本とは在学年数が異なります。普段は私たちのような外国人が訪れることはないのですが、最初は緊張していた女子高生の皆さんも少しずつ打ち解けて、ガールズトークをしてくださいました。

女子高生たちに将来の夢を聞くと、「ナースになりたい」「先生になりたい」「ツアーガイドになりたい」

という声が多く、将来の自立に向けてラオス語だけでなく英語をもっと話せるようになりたいと語っていました。英語ができれば、より多くのチャンスをつかめると感じている様子が印象的でした。

ちびっ子たちは裸足でグラウンドを駆け回り、スタッフと激しめの鬼ごっこを繰り返していました！



〈番外編②〉ルアンパバーンは街全体が世界遺産

ルアンパバーンは、街全体が世界遺産に登録されている特別な場所です。山々と川に抱かれた静かな街並みには、かつてフランス領だった名残が今も息づき、パン屋やカフェが多く立ち並びます。

早朝には、オレンジ色の袈裟をまとった仏教僧が托鉢のためにゆっくりと歩き、街は柔らかな祈りの空気に包まれます。朝市は観光客でにぎわい、地元の野菜や果物、手仕事の品々が並び、活気と温かさが混ざり合う独特の雰囲気をつくっています。

自然豊かな秘境としても知られ、澄んだ空気と美しい景観が訪れる人を静かに魅了します。歴史、文化、自然が穏やかに溶け合うルアンパバーンは、歩くだけで心がほどこけていくような、そんな特別な世界遺産の街です。





ここまでラオス国支援活動の報告書をお読みいただき感謝申し上げます。

2025 年 4 月よりラオス国政府と直接協定を結ぶことができ、より多くの子どもたちにワクチンを贈ることができております。ひとえに古着 de ワクチンをご利用いただいているお客様のおかげです。いつも応援をありがとうございます。

弊社はこれからも事業を通して「モノを捨てずに活かす」ことを軸に、世界中の障がいのある方の自立支援をサポートしてまいります。

最後に、スレイレックのインタビュー動画を載せさせていただきます。生の声を是非お聞きください。



支援活動中にリアルタイムで撮影！
スレイレックインタビュー

スタッフの日常を発信中！
公式インスタグラム

古着 de ワクチンの応援団！
徳得事業（活動）
マンスリーファンクラブ



2026 年 8 月 日本リユースシステム株式会社

古着 de ワクチン運営責任者 辻本真子

Special Thanks ポリオワクチン支援活動 SDGs スポンサー

本活動にご支援を賜りましたスポンサー企業の皆さまに 心より感謝申し上げます。



KMバイオロジクス株式会社



コクヨマーケティング株式会社



Craif 株式会社



株式会社エアトランク



銀座慈秀会クリニック